



静岡県立大学 大学院 国際関係学 研究科

研究科案内



国際関係学研究科の特色

Graduate School of International Relations University of Shizuoka

「国際関係学研究科HP」は
こちら ▶



1



国際的な場で活躍できる スペシャリストの養成

グローバル企業、国際NGOなどの国際機関、国際化するわが国の行政、ビジネス、教育、文化、社会活動、ジャーナリズムなどの分野で活躍できるスペシャリストの養成を図ります。2専攻各5名の学年定員に、60名に及ぶ充実した教員を配置し、最先端の研究に基づく、学際的できめ細かい指導にあたります。

3



グローバル化する 市民社会を 学際的な観点から分析

グローバル化の進行により、国家を単位としてきた従来の専門分野による研究の限界が目立つようになり、国境を越えた市民の行動を、様々な専門分野の協力に基づく調査研究を通じて、学際的に究明することが現在重要になっています。こうした状況に即して、社会学、社会心理学、文化人類学、メディア研究等の諸分野による学際的アプローチを試みます。グローバル化の時代に即したグローバル・スタディーズと呼ばれる新しい調査研究のアプローチを身につけることを目指しています。

4



幅広い比較の視点から 文化の諸相を究明

世界における様々な文化のありようを、言語、文学、歴史、思想、宗教などの観点からとらえ、その様態を究明する研究を行っています。さらに、比較研究法を習得することによって、専門領域内外の視点を得るとともに、多様な文化や価値観の固有性と普遍性を解明し、国際社会を複眼的に見ることが出来る技術を身につけます。

2



最新の国際関係を 分析する研究視点の提示

21世紀の国際社会の動向を理解するためには、政治、経済、法律、文化といった様々な領域を考慮した新しい研究枠組みを提示する必要があります。唯一の超大国としての米国、台頭する中国、国家の枠を超えて統合を試みる欧州、不安定要素を抱えながらも新たな市場として期待される新興国など、わが国を取り巻く世界は激変しています。グローバル化する経済、地球環境の問題など、複雑化する国際関係に対する新たなアプローチを探究しています。

5



グローバルな視野の獲得

日本、アジア、英米、ヨーロッパを中心とする4つの地域研究分野を設け、それぞれの地域についての専門的研究を深めるとともに、比較研究のための方法論を身につけます。地域を深く知ると同時に比較によって視野を広げることを通じて、グローバルな視野を獲得することに重点を置いています。

Message 研究科長メッセージ

親密なコミュニティでの
多様性豊かな学び。
それを通して、
世界の課題を考える。

「国際」や「グローバル」、そういう言葉を聞いて、みなさんは何をイメージしますか？ 国際協力やビジネスの場での精力的な活動でしょうか。それとも、政治や経済、軍事の力が剥き出しに對峙しあう闘争の場でしょうか。もちろん、現実の国際社会には、両方の面があります。そして私たち国際関係学研究科は、それらポジティブ面・ネガティブ面の双方の課題を自ら調べ、考え、実践につなげていく、多様な学びの場を提供すべく、日々活動しています。

本研究科の創設は1991年。ソビエト連邦が解体し、東西冷戦体制が終焉する間際のことでした。以来30年あまり、活気と混迷を同時に極めていく国際社会を見すえつつ、多様な出自や文化的背景をもつ多くの大学院生たちが本研究科で学び、それを糧に世界のさまざまな場へ巣立っていきました。いまこの瞬間も彼ら彼らは、多様なフィールドで活躍しています。

では、そんな本研究科の特徴と魅力はどんなところにあるのでしょうか？

第一に、きわめて多様な学びができる点です。本研究科は2つの専攻に属する6つの専門分野のもと、独自の研究テーマをもつ教員たちが教育に取り組んでいます。それはあたかも、「国際」をキーワードにして、人文・社会科学のさまざまな学びが豊かに盛り込まれている大きな器のごとくです。あなたの関心が何であれ、どこかで「国際」に関連づけられるものであるなら、きっと自分自身の学びを追究できるはずですよ。

第二に、非常に充実した研究指導体制です。本研究科は在席する学生数に対して、その倍以上の数の教員が指導に取り組んでいます。国際関係学部の教員がほぼそのまま研究科の教育にあたっているがゆえですが、その結果、大学院教育において最も重要な、懇切丁寧な個人研究指導が実現されているのです。

そして第三に、たいへん親密な大学院生コミュニティが形成されている点です。コンパクトな規模であるがゆえに、世界と日本の各地から来た院生たちはどの代でも親密なコミュニティを形成し、大切な研究仲間としてともに学んでいます。刺激と喜びを分かち合う「学びの仲間」が得られる点も、本研究科の大きな魅力なのです。

そうした特徴と魅力を大切にしつつ、私たちはみなさんをお待ちしています。

大学院
国際関係学研究科長
飯野 勝己



日本文化研究分野 Japanese Culture



日本の言語・文学・思想という比較文化の基礎となる領域を扱います。具体的には、日本語教育、古典語から現代語の分析、また古代、中世、近世から近代に至るさまざまな文学や思想の研究を行います。資料に粘り強く向き合い、自ら問いを立てて考え続けたい人、教育・研究のみならず地域連携に関心のある人にも適した教育プログラムです。国語教員専修プログラムも設けられています。

■ 科目一覧

日本文化研究A・B／比較宗教研究A・B／日本文化史研究A・B／日本思想史研究A・B／日本文学研究IA・B／日本文学研究IIA・B／日本文学史研究A・B／日本文学特殊研究A・B／日本語表現研究A・B／日本語表現特殊研究A・B／日本語学研究IA・B／日本語学研究IIA・B／日中関係史研究A・B／日本語教育学研究IA・B／日本語教育学研究IIA・B／日本語教育演習／日本文化演習IA・B／日本文化演習IIA・B／フィールドワーク

アジア文化研究分野 Asian Culture



中国、朝鮮半島、東南アジア、南アジア、ロシアなど、広大なアジアの国や地域を、国際関係論、政治学、経済学、社会学、文化人類学、歴史学、哲学、宗教学など、様々な切り口から総合的に捉え、その実態と本質に迫ります。異文化間の相互作用を比較・分析し、歴史と現在を結びつけ、マイノリティや草の根の人々にも目を向けながら、複眼的かつ批判的な思考を身につけるプログラムです。

■ 科目一覧

アジア地域研究A・B／東洋思想史研究A・B／中国文化研究A・B／現代中国研究A・B／韓国朝鮮社会文化研究A・B／韓国朝鮮史研究A・B／朝鮮半島政治外交研究A・B／東南アジア文化研究A・B／現代東南アジア研究A・B／ロシア文化研究A・B／ロシア社会研究A・B／日露関係研究A・B／東西文化交流史研究A・B／華僑・華人文化研究A・B／東南アジア民族学研究A・B／アジア文化演習IA・B／アジア文化演習IIA・B／フィールドワーク

英米文化研究分野 British and American Culture



言語理論、歴史、文学、社会学、コミュニケーション学などの研究領域について、英米を主とする諸地域間の比較や、過去と現在との比較を通して学び、学術の探究に必要な英語運用力と研究方法論を体系的に身につけます。資料を分析して文化の構造や価値観を批判的に考察し、国際社会の課題を多面的に捉えて理解する力を育成します。英語教員専修プログラムが設けられています。

■ 科目一覧

英米文化研究方法論A・B／英米文学研究A・B／イギリス文化研究A・B／アメリカ文化研究A・B／イギリス社会史研究A・B／アメリカ社会史研究A・B／英米社会文化研究A・B／英語学研究A・B／英語意味論研究A・B／英語統語論研究A・B／言語機能論研究A・B／第二言語習得研究A・B／外国語教育研究A・B／アカデミック・イングリッシュIA・B／アカデミック・イングリッシュIIA・B／英語教育演習／英米文化演習IA・B／英米文化演習IIA・B／フィールドワーク

ヨーロッパ文化研究分野 European Culture



ドイツ、フランス、スペインをはじめとするヨーロッパの各地域に密着し、文学作品の解釈や評論、美術等も含めた広範な文化や宗教の歴史、自由・正義・権利と公正な社会秩序の形成、政治や戦争におけるマスコミや映像の影響などを、比較研究という大きな枠組みで取り上げます。さらに、人間科学を含め広い視野から文化を再考し、ヨーロッパ社会における持続と変化を追究します。

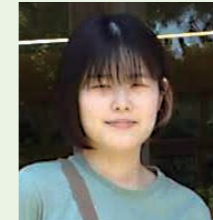
■ 科目一覧

ヨーロッパ文化研究IA・B／ヨーロッパ文化研究IIA・B／ヨーロッパ思想研究IA・B／ヨーロッパ思想研究IIA・B／ヨーロッパ思想研究IIIA・B／フランス文学研究A・B／フランス文化研究IA・B／フランス文化研究IIA・B／ドイツ文学研究A・B／ドイツ文化研究IA・B／ドイツ文化研究IIA・B／人間科学研究A・B／スペイン文学研究A・B／スペイン文化研究IA・B／スペイン文化研究IIA・B／ヨーロッパ文化演習IA・B／ヨーロッパ文化演習IIA・B／フィールドワーク

在学生の声

充実した研究環境

大畑 侑莉さん
比較文化専攻／日本文化研究分野



私は、日本の古典文学作品である『源氏物語』の装束描写について研究をしています。大学時代の卒業論文をより発展させるために、本研究科に在籍しています。この研究をする傍ら、共通科目や専門科目を履修することで様々な知識を蓄えることができ、学部時代を上回るような、とても充実した日々を送っています。各々の授業では、文献調査を通じて自分の意見をまとめ、報告を行います。数多くの資料を取り扱っていく中で、研究科の先生方はとても頼りになります。特に日本研究をしている学生が少ない中、先生方は親身になって相談に乗ってください。また、研究や学習を進めていく上で重要な施設も整っています。大学院生室は勿論、大学図書館や学習スペースも充実していて、研究や勉強に快適な環境と言えます。特に大学図書館は、朝から晩まで集中できる場所です。大学院生においては、図書館の時間外利用制度もあり、休日や夜間に利用することもできます。私たちはこのような恵まれた環境で、よりよい研究成果を挙げるため日々奮闘しています。

修了生の声

学際的な視野を広げ、比較文学研究への道を開いてくれた修士課程

那須野 絢子さん(常葉大学教員) 2012年3月修了
比較文化専攻



大学卒業後、文学研究への憧れを抱きつつも就職の道を選んだ私にとって、社会人として通った国際関係学研究科での時間は、人生に転機をもたらす貴重な経験となりました。限られた時間の中で単位を取得する必要があったため、科目履修生として1年間所属した後に正式に入学をしました。大学時代は、関心のあったイギリス文学に特化した授業のみを受け学士を取得しましたが、静岡県立大学での修士課程では、ドイツ、ラテン、日本の文学、歴史など広い視野を以て学問研究が可能になったことは大きな収穫でした。先生方が私の修論テーマに沿った教材を選定し、丁寧に指導をしてくださった賜物だと思います。現在は、大学院時代の学びを活かし、大学教員として比較文学を専門領域に研究活動に励んでおります。また最近では、オムニバス授業で県立大学において講義を行う機会もいただき、母校に仕事で関わられることを大変うれしく感じております。

「国際関係学研究科HP」では他にも多くの在学生・修了生メッセージを掲載しております。ぜひこちらからご覧ください▶



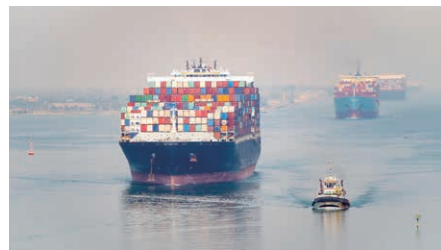
*本研究科では、大学院生が指導教員とすることができるのは教授・准教授のみです。このため、本パンフレットの「教員紹介」には、2027年度新入生が指導教員とすることができる教授・准教授を掲載しています。全教員の詳しいプロフィールは、下記サイトの教員紹介をご参照ください。

<https://db.u-shizuoka-ken.ac.jp/index.php/prof/faculty/3>

*自分が所属する研究分野以外の科目を履修する際の条件など、本研究科の履修方法や修了要件の詳細は下記サイトの説明をご参照ください。

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/graduate-international/gint-curriculum/>

国際政治・開発研究分野 International Politics and Development



国際政治・開発研究分野は、政治学、経済学、経営学、法学などの密接に関連し合う社会科学系の科目群を提供し、国際社会をマクロ的に分析する高度な能力を少人数教育で養成します。専門分野を基礎理論から深く学ぶと同時に隣接分野の知識や方法論も修得することで、大学院での学びを企業や行政の意思決定に柔軟に活かし、社会の安定や発展に能動的に寄与できる人材を育成しています。

■ 科目一覧

国際政治学研究ⅠA・B／国際政治学研究ⅡA・B／中国政治外交研究A・B／朝鮮半島政治外交研究A・B／日本政治外交研究ⅠA・B／日本政治外交研究ⅡA・B／EU政治研究A・B／広域ヨーロッパ研究A・B／国際法研究ⅠA・B／国際法研究ⅡA・B／国際経済学研究ⅠA・B／国際経済学研究ⅡA・B／国際開発研究ⅠA・B／国際開発研究ⅡA・B／国際金融研究ⅠA・B／国際金融研究ⅡA・B／国際経営研究ⅠA・B／国際経営研究ⅡA・B／国際関係学演習ⅠA・B／国際関係学演習ⅡA・B／フィールドワーク

国際社会・文化研究分野 Socio-Cultural Studies of Global Issues



国際社会・文化研究分野は、社会学、人類学、社会心理学、コミュニケーション学などの立場から、グローバルな課題に取り組んでいる学際的な研究分野です。社会調査やフィールドワーク、計量分析などの手法を用いて、国境を越えた市民の行動を実証的に解明することを通じて、マイノリティと人権、多文化共生、開発と文化・環境などの地球社会の重要課題を研究しています。

■ 科目一覧

国際社会研究ⅠA・B／国際社会研究ⅡA・B／国際社会研究ⅢA・B／国際社会研究ⅣA・B／コミュニケーション研究ⅠA・B／コミュニケーション研究ⅡA・B／現代社会研究ⅠA・B／現代社会研究ⅡA・B／現代社会研究ⅢA・B／文化人類学研究A・B／行動計量学研究A・B／国際関係学演習ⅠA・B／国際関係学演習ⅡA・B／フィールドワーク

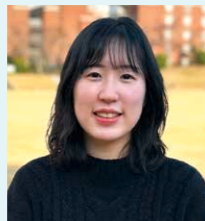
教員紹介 [専門分野]

小塚 英治 教授 開発経済学	若山 将実 教授 比較政治学、日本政治史、政治制度論	小窪 千早 准教授 国際政治学、欧州の政治・安全保障、フランス現代政治	飯野 勝己 教授 哲学、言語哲学、コミュニケーション論	高畑 幸 教授 都市社会学、民族関係論、在日外国人研究	坪田 光平 准教授 教育社会学、マイノリティ論、移民研究
佐藤 真千子 教授 アメリカ政治外交、国際関係論	飯野 光浩 准教授 開発経済学、開発援助論、国際経済関係論	長島 徹 准教授 ロシア政治、国際政治学	石井 由香 教授 国際社会学	坂本 剛 准教授 社会心理学、文化心理学、環境心理学	
山下 光 教授 国際政治学、安全保障・平和研究	石川 義道 准教授 国際経済学	宮崎 晋生 准教授 経営学、国際経営論	湖中 真哉 教授 文化人類学、アフリカ地域研究	孫 暁剛 准教授 生態人類学、人文地理学、アフリカ地域研究	

在学生の声

徹底した少人数教育

池田 優菜さん
国際関係学専攻／国際社会・文化研究分野



私は、多文化共生分野に関心があり、主に日本に住むフィリピン人の子どもの教育について研究しています。学部時代に抱いた疑問や関心を深く追いたいと考え、修士課程に進学しました。修士論文の執筆に向けた文献購読やフィールドワーク調査、日々の授業により、充実した院生生活となっています。本研究科は少人数体制のため、切磋琢磨し合う関係性を院生同士で構築することができます。さらに授業の際には1人1人が主体的に議論に参加をすることができます。また、高い専門性を有する先生方からの的確な助言をいただけることも本研究科の魅力の1つです。先生方は学生の意志を尊重し、どのような方法で研究を実現させることができるのか親身に相談に乗ってください。私自身、先生方にお力添えいただき、フィリピン大学に留学できることになりました。フィリピン留学中には、日系人の多いダバオを訪れ、現地調査を実施する予定です。深い洞察力や幅広い知識を身につけ、納得のいく修士論文を執筆できるよう、今後も日々研究に力を注いでいきたいと思います。

修了生の声

社会人経験を生かし、正面からフィールドと向き合う

岩本 和太さん(専門学校教員)
国際関係学専攻

2022年3月修了



私は社会人学生として3年間、国際関係学研究科に通いました。仕事と研究の両立は大変でしたが、刺激的で充実した日々でした。進学した一番の理由は、仕事を通じてどうしても知りたいことができたからです。私は大学卒業後、国内外の教育現場で異文化に触れながら働きましたが、次第に教育内容だけでなく「異文化接触を通じた学びや成長」に関心が集約していき、その先にあったのが大学院進学でした。社会経験を基に研究できるのが社会人学生の良さと、研究成果が次のキャリアと社会貢献につながるのを感じています。授業で最先端の知識を持つ先生方や大学院生同士で語り合ったことは、本当に貴重な時間でした。様々なサポートにも感謝しています。私は国際関係学研究科で学んだことで新たな世界が広がりました。まずは興味のある研究室に連絡を取り、職場等と調整をし、進学の可能性を探ってみるのが良いと思います。

「国際関係学研究科HP」では他にも多くの在学生・修了生メッセージを掲載しております。ぜひこちらからご覧ください▶



Q&A

Q1.

留学生にとって日本語で論文を書くのは大変なことです。留学生向けに日本語論文の作成を支援するサービスはあるでしょうか？

A. 留学生を主な対象に、日本語で論文を執筆する際の基礎を学ぶ日本語論文支援講座を行っています。また、留学生を対象に、修士論文の草稿を読んで日本語表現の誤りや不自然さなどをチェックする添削サービスも行っています。

Q2.

文献のコピーや購入、学会出張などの際の経費を補助してもらえる制度はありますか？

A. 本学図書館のコピー機を研究科の負担で利用できるほか、書籍の購入に使用できる研究支援費や、国内学会への参加等に使用できる国内研究旅費を公募・選定の上で支援しています。また、海外で開催される国際学会で研究発表を行う際に、その旅費の一部を支援する制度もあります。

相談窓口

本研究科について、わからないこと、知りたいことなどがありましたら、研究科の助教がご相談に応じます。

E-mail gsir-contact@u-shizuoka-ken.ac.jp

左記のメールアドレスまで、お気軽にご連絡ください。

修士論文の題目例(2024~2025年度修了者)

- 「フィリピンにおける農業開発と地域振興—ベンケット州ラ・トリニダッドのイチゴ産業の事例を通して—」
 - 「現代日本における学力格差とジェンダー格差の重層構造に関する研究」
 - 「戦後のブラジルにおける日本人移民の軌跡と共同体形成—コロナ・ピニャール(福井村)の事例—」
 - 「日本の地方都市における高齢者の異文化接触の現状と課題—20人へのインタビューから—」
 - 「文学表現としての装束—『源氏物語』の明石の君に焦点を当てて—」
 - 「アロンソ・デ・ラ・ベラクルスとの婚姻論—サラマンカ学派と宣教における実践—」
 - 「姉妹都市間における文化交流の役割と地域外交への影響—北九州市と大連市の姉妹都市関係を事例として—」
 - 「在日中国人留学生の日本語習得動機づけについて」
 - 「中国沿海都市における新住民のリミナリティ—広東省深圳市塩田コミュニティを事例として—」
 - 「民俗芸能の変容と普及のネットワーク—インドネシアにおける民俗楽器アンクルンの観光資源化と実践者コミュニティの拡大—」
- ※題目一覧は研究科特設サイト(<https://ir.u-shizuoka-ken.ac.jp/grad/>)に掲載しています。

長期履修制度

本研究科では、2023年1月から長期履修制度を導入しました。この制度では、職業従事、育児、介護と学業の両立、障害による就学の困難等の理由で、標準的な修業年限(2年)での修了が難しい方を対象に、承認された場合、最長4年まで修業期間を延長することを認めています。その場合、授業料は、2年分の総額を認められた年数で分割して納入することになります。詳細については、学生部学生室(TEL (054) 264-5009)までお問い合わせください。

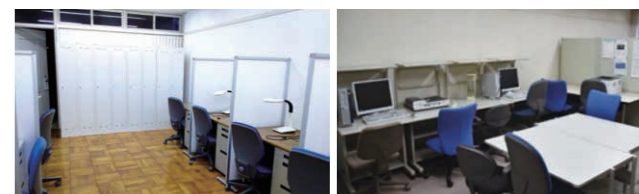
研究生制度

本大学院では、正規の大学院生とは別に、本学教員の指導の下で特定の専門事項について研究することを希望する者を、研究生として受け入れる制度があります。研究科で入学資格の確認、所定の手続き等を行った後、学長が入学を許可します。詳細については、学生部学生室(TEL (054) 264-5009)までお問い合わせください。

就職先の例

静岡市立中学校、静岡県公立高校、聖隷クリストファー中・高等学校、島田実業高等専修学校、南山学園、A.C.C.国際交流学園、静岡県、熱海市、藤枝市、すずらん協同組合、中国人民銀行、静岡新聞社・静岡放送、北海道電力、東京海上日動火災保険、静岡銀行、ポッシュ、ヤマハ発動機、ヤマハモーターパワープロダクツ、エンケイ、ソミック石川、廣彰計器、金子コード、パナソニックライティングデバイス久美浜、サクラクレパス、シエスタゲート、レマコム、日本NCR、日立アカデミー、クロスポイントソリューション、鈴与システムテクノロジー、新大陸、ASCare(アスカア)

研究室・コンピュータールーム



学内の勉強場所として、大学院生専用の研究室とコンピュータールームが設置されており、常時利用が可能です。

専攻	一次募集		二次募集	
	一般選抜	特別選抜 (社会人、外国人、推薦)	一般選抜	特別選抜 (社会人、外国人)
国際関係学専攻	5名		若干名	
比較文化専攻	5名			

選抜方法

■ 一次募集 (毎年度9月に試験実施)

一般選抜、社会人特別選抜、外国人特別選抜

出願書類、学力検査(外国語)および口頭試問の結果を総合的に審査。外国語の科目については以下の表をご覧ください。

国際政治・開発研究分野	「英語」または「日本語(外国人特別選抜出願者のみ選択可能)」
国際社会・文化研究分野	「英語」または「日本語(外国人特別選抜出願者のみ選択可能)」
日本文化研究分野	「英語」但し、外国人特別選抜出願者は「日本語」
アジア文化研究分野	「英語」または「日本語(外国人特別選抜出願者のみ選択可能)」
英米文化研究分野	「英語」
ヨーロッパ文化研究分野	「英語」または「日本語(外国人特別選抜出願者のみ選択可能)」

推薦特別選抜

出願書類および口頭試問の結果を総合的に審査。本学国際関係学部3年生あるいは4年生に在学し、規定を満たす者。

■ 二次募集 (毎年度2月に試験実施)

出願書類および口頭試問の結果を総合的に審査。

Open Campus

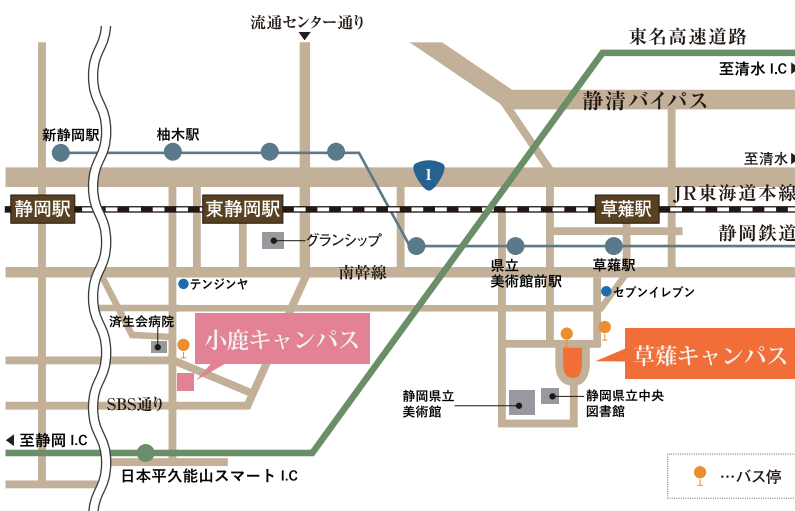
オープンキャンパス

国際関係学研究科では、入学試験(一次・二次)に合わせ、前期・後期に大学院説明会を開催しています。遠方の方のためにオンライン説明会も実施しています。相談窓口では随時お問い合わせ・ご相談を受け付けていますので、お気軽にご連絡ください。

E-mail gsir-contact@u-shizuoka-ken.ac.jp



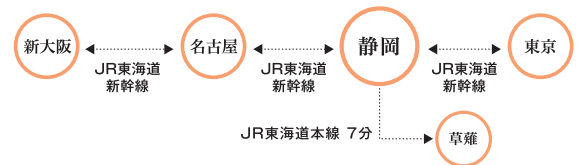
■ ご案内(大学所在地・交通)



※国際関係学研究科は草薙キャンパスになります。

● 静岡までのアクセス

- 東京から: 東京→静岡 約1時間
 - 大阪から: 新大阪→静岡 約2時間
 - 名古屋から: 名古屋→静岡 約1時間
- (いずれも「新幹線ひかり号」を使用した場合)



● 最寄り駅から草薙キャンパスへのアクセス

【草薙キャンパス】

徒歩

JR「草薙駅」南口(県大・美術館口)、または静岡鉄道「県立美術館前駅」静岡鉄道「草薙駅」から徒歩15分

バス(静鉄バス)

JR「草薙駅」南口(県大・美術館口)バス停から草薙団地行き(三保草薙線)で「県立大学入口」下車、徒歩5分
*平日の午前のみ、「県立大学前」下車が可能(下車0分)